



2020年（令和2年）6月22日

車いすで利用しやすい、バリアフリーに配慮した一般客室

### 帝国ホテル 東京本館に バリアフリールームを9室設置



帝国ホテル東京は、車椅子をご利用のお客様がより利用しやすい設えに部分的な改修を施したバリアフリールーム 9 室を設置し、2020 年 3 月からご提供しています。



ホテルのバリアフリー化を規定するバリアフリー法施行令が2019 年10月19 日に改正され、ホテルを新設する場合100 室に対して1 室の割合でバリアフリーに配慮した客室の設置が義務化されました。さらに、オリンピック・パラリンピック期間中には、例年以上に多くの方が東京にお越しになることから、より多くのバリアフリーに対応した客室をご用意することで、障がいをお持ちの様々なお客様の選択肢を増やし、ホテルでの滞在をより楽しんでいただけるよう、準備する必要があります。

帝国ホテルは障がいをお持ちのお客様に対し、ソフト面の対応としてこれまでに災害時要配慮者対応の策定、盲導犬・聴導犬・介助犬の受入体制の徹底を行う一方、ハード面の対応としては、聴覚障がい者対応としての字幕放送テレビ導入、館内及び建物周囲の段差へのスロープの設置、パブリックエリア、エレベーターなどにおけるバリアフリー機能の設置、客室内バスルームやトイレへ手すりの順次増設を実施してきました。

しかし、障がい者専用の客室としては、ワイドスライドドアや電動ベッドなどを設置した車いす使用者用客室を1 室設けているのみでした。そこで、より多くの対応客室を設置しようと、一般客室を改修し「バリアフリールーム」を2020年3月までに9室設けました。

バリアフリールームは障がい者や高齢者など、車椅子をご利用のお客様がより利用しやすい設えに部分的な改修を施した一般客室です。客室 9 室を改修し、車椅子をご利用になるお客様のご予約に対して優先的にご用意いたします。具体的には、平均的な車椅子（幅 70cm 以下※JIS 規定）でも入室しやすいように客室入り口幅を 78cm から 82 cmに拡張、スライドドアのワードローブ設置、バスルームへの傾斜を緩やかにし、TV 台や洗面台の下部に車椅子の車体挿入スペースを作るなどの設備変更を行いました。さらに、聴覚障がい者向けの貸し出し備品として、来訪時のチャイムや、電話の音を振動で知らせる「シルウォッチ」をご用意。遠隔筆談に対応できるアプリを搭載したタブレット端末の貸し出しも行います。



また、2007年から開始した社内研修の、障がい者・高齢者の「介助サポート力向上セミナー」は、2020年3月時点で延べ712名が受講済みです。

当社では、ダイバーシティの観点から、ハード・ソフト・ヒューマンのそれぞれの分野において改修や教育を進めることで、より多くのお客様がホテルの滞在を安全・安心に過ごしていただけるよう、更なるサービス向上に努めてまいります。